

## 令和5年度 第2回 介護・医療連携推進会議 記録

### ● 事業所情報

法人名	株式会社みらいさい福祉会
事業所	愛光苑松本サポートセンター

### ● 開催日時・場所

日時	令和5年12月14日（金）13:30～15:00
場所	岡田松岡公民館

### ● 参加者（順不同）

NO	所属（役職）	氏名
1	利用者家族	A様
2	地域住民の代表（岡田松岡町会長）	T様
3	地域住民の代表（岡田松岡民生委員）	K様
4	地域住民の代表（岡田地区地域づくりセンター長）	Y様（代理 O様）
5	地域包括センター	W様
6	知見を有する者（愛光苑ケアマネセンター）	S様
7	知見を有する者（うつくしがはら温泉敬老園居宅）	Y様（欠席）

### ● 議事

NO	議事内容
1	会議の目的
2	愛光苑松本サポートセンター業務内容
3	質疑応答

### ● 記録

議事1	「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」のサービス内容の周知
	<p>サービスの目的は、「中重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けること」や「在宅生活の限界点を高める」ことにある。</p> <p>サービス提供の形は、24時間365日対応であるが、1回の訪問は20～30分以内、1日に3～4回訪問が可能。事業所のある中学校区内に訪問先があると効率よくサービス提供できる。前回は事務所のある岡田地区の町会長や民生委員に出席の協力をいただき、地区の資源として知っていただければという思いもあり、開催した。</p> <p>今回は松本サポートセンターのサービス提供先として、在宅、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム、の3つに分けて、サービスの実際や課題等について情報提供したい。</p>
議事2	愛光苑松本サポートセンターの業務内容について（詳細は資料参照）

	<p>愛光苑松本サポートセンターのサービス提供先は、在宅 6 名、サービス付き高齢者向け住宅（みらいふ）10 名、住宅型有料老人ホーム 49 名となっている。（詳細は別紙資料参照）</p> <p><b>・在宅訪問</b></p> <p>事務所から 30 分以内のエリアに限り新規利用者を受け付けている。サービス提供内容は、食事のセッティング、配膳、内服確認、安否確認、排泄介助（ポータブルトイレの片付けやパットの準備確認）。食事の準備や内服確認を一日に数回支援することで、在宅での独居生活を継続できている。看護連携型でサービス提供しており、別事業所の訪問看護ステーションの看護師に定期的に訪問してもらっている利用者が 1 件ある。</p> <p><b>・サービス付き高齢者向け住宅</b></p> <p>8 世帯入居できるが、夫婦で利用している世帯もあり、10 名の利用者となっている。定期巡回のサービスを利用しない同居者もいる。給食等の提供がないため、お弁当の宅配や生協を利用し、定期巡回のサービスで配膳を行っている。地域活動としては、町内のお祭りの寄付をさせていただいた。看護連携型でサービス提供しており、別事業所の訪問看護ステーションの看護師に定期的に訪問してもらっている利用者が数件ある。</p> <p><b>・住宅型有料老人ホーム</b></p> <p>定期巡回の看護一体型でサービス提供している。入退去をみると、医療処置を必要とする利用者様が入居を希望される傾向にあった。お看取りまで対応するため、退居の理由はご逝去が多く、その他特別養護老人ホーム・病院入院等である。今年度は 2 名の利用者様が在宅へ帰宅し、最期の時間を在宅で過ごすことができた。今年度はコロナでできなかった施設の祭りを再開することができた。緑日風のレクリエーションを準備し入居者様に楽しんでもらった。</p>
議事 3	質疑応答
質問 1	BCP の作成は完成しているか？
回答 1	災害・感染症とも一昨年完成している。施設を束ねる会社に取りまとめて作成している。災害 BCP についてはマニュアルに基づき避難訓練を行っている（施設輪番制）。備蓄品の在庫確認や補充も合わせて行っている。感染症 BCP は昨年コロナが流行った際内容を見直し、定期的にシミュレーション訓練（防護服の着脱や手洗い・感染初動訓練）を行っている。
質問 2	災害時、電話が通じなくなった時に入居している家族の安否確認について、準備しているものはあるのか？
回答 2	現在電話を利用した通信方法しか準備できていない。
質問 3	愛光苑松本サポートセンターの来年度以降の地域密着型サービスの会議は、どのような方向性で進めていくのか？
回答 3	昨年度は浅間温泉にある住宅型有料老人ホーム（まつもと）周辺地域の関係者にご協力いただき本会議を開催した。今年度はサービス付き高齢者向け住宅（みらいふ）周辺地域の関係者にご協力いただき、定期巡回型訪問介護看護サービスを周知する目的で開催した。来年度以降は、定期巡回型訪問介護看護サービスの本来の目的である、「在宅生活の限界点を高める」ことを念頭に、在宅で生活する利用者様を取り巻く地域をターゲットに開催できたら、と検討している。

議事録作成

松崎

以上